

## 第2章 拡大推計結果

### 1 抽出結果の拡大推計方法

#### (1) 前提条件の整理

##### 集計表の表示方法

- ・ 123,456 : 「住民基本台帳人口移動報告年報」等の既存資料から得られるデータ
- ・ 123,456 : 拡大推計により算出したデータ
- ・ 123,456 : 他の表において算出したデータを参照するデータ（第1表で算出したデータを第2表で利用する場合等）
- ・ 123,456 : 表中において集計して得られるデータ（「総数」等）

##### 利用した既存資料および集計方法

- ・ 移動件数については、平成20年度「住民基本台帳事務月計表（大阪市）」をもとに集計した。なお、区間移動については、同月計表の転入から該当数を集計した。
- ・ 移動人員については、平成20年度「住民基本台帳人口移動報告表（大阪市）」をもとに集計した。なお、区間移動については、同移動報告表の転入から該当数を集計した。

#### (2) 拡大推計の基本的な考え方

- ・ 右図のようなマトリクスに基づいて拡大推計を行う場合、既存資料集計から得られるデータは、以下の4ケースがある。

	総数	A区	B区	C区
総数				
男				
女				

ケース1：総数のみが把握できる場合

ケース2：男女別もしくは、区別総数が把握できる場合

ケース3：男女別区別総数が把握できる場合

ケース4：男女別区別データが把握できる場合 拡大推計の必要なし

- ・ ケース1については、以下の方法で拡大推計を行った。

ケース1：総数のみが把握できる場合

サンプルデータ集計結果

	総数	A区	B区	C区
総数	100	20	30	50
男	60	15	20	25
女	40	5	10	25

既存資料集計結果

	総数	A区	B区	C区
総数	1,000			
男				
女				

ステップ1

	総数	A区	B区	C区
総数	1,000	200	300	500
男	600	150	200	250
女	400	50	100	250

サンプルデータの比率で総数を男女別区分に按分する。

- ・ ケース2については、以下の方法で拡大推計を行った。  
以下の集計表については、小数点以下を四捨五入しているため、計は必ずしも一致しない。

ケース2：男女別もしくは、区別総数が把握できる場合

サンプルデータ集計結果

	総数	A区	B区	C区
総数	100	20	30	50
男	60	15	20	25
女	40	5	10	25

既存資料集計結果

	総数	0～4	5～9	10～14
総数	1,000			
男	550			
女	450			

ステップ1

	総数	0～4	5～9	10～14
総数	1,000	200	300	500
男	550			
女	450			

サンプルデータの比率で総数を区別に按分する。

ステップ2

	総数	0～4	5～9	10～14	仮計	誤差
総数	1,000	200	300	500		
男	550	138	183	229	550	0
女	450	56	113	281	450	0
仮計		194	296	510		
誤差		6	4	-10		

サンプルデータの比率で男女別総数を区別に按分する。  
区別の仮計と区別総数は一致しない。

ステップ3

	総数	0～4	5～9	10～14	仮計	誤差
総数	1,000	200	300	500		
男	550	142	186	224	552	2
女	450	58	114	276	448	-2
仮計		200	300	500		
誤差		0	0	0		

男女別区別データに(区別総数/区別の仮合計)を掛け、調整する。  
区別の仮計と区別総数は一致するが、男女別の仮計と男女別総数は一致しない。

ステップ4

	総数	0～4	5～9	10～14	仮計	誤差
総数	1,000	200	300	500		
男	550	141	185	224	550	0
女	450	58	115	277	450	0
仮計		200	300	500		
誤差		0	0	0		

男女別区別データに(男女別総数/男女別の仮合計)を掛け、調整する。  
男女別の仮計と男女別総数、区別の仮計と区別総数ともに誤差の四捨五入が0となる。

- ・ ケース3については、ケース2に準じる方法で拡大推計を行った。
- ・ 誤差の率が最大3%以内になるまで、ステップを繰り返し行い、出来る限り誤差の範囲を少なくした。